

発行 社会福祉法人 聖友ホーム  
聖友乳児院 (乳児院)  
聖友学園 (児童養護施設)



Ta君 10さい 「先生と乳児院の壁に絵を描いたよ」

目次 ●コラム・「園長を辞するにあたって」 聖友学園 園長 坂田 渥…………… 2  
 ●このゆびとまれ・乳児院の壁に描いた絵…………… 5  
 ●もぐもぐ・乳児院、学園 食育の考え方…………… 6  
 ●「ありがとうございました」…………… 7

〒166-0001 杉並区阿佐谷北 3-28-19

聖友乳児院

TEL 3338-1849 FAX 3338-4679

聖友学園

TEL 3338-1844 FAX 3338-1894

E メール (共通) [seiyugakuen@nifty.com](mailto:seiyugakuen@nifty.com)

園長を辞するに当たって

聖友学園 園長 坂田 渥

平成十七年四月、新年度を迎え最初の職員会議で、十八年三月末をもって園長を退くこと、後任を井上恭子主任（副園長）にお願いすることを発表し、法人の理事会でも内諾を得たことを全職員に報告しました。その日が少し近づいている十二月、「ぴーちっこ」編集委員から園長を辞めるについて何か一文を、と依頼がありました。ですから実は、この原稿は十二月に書いております。まだ、三月三十一日迄は三ヶ月余りあり、それ迄に私の責任でやり終えておかねばならない課題も多く残しており、正直なところまだ「退任」が実感できていないのが現状です。

平成十二年十二月、床次瑞彦理事長（当時）から、「とにかく一日も早く来てもらいたい」と強く要請があり、十二月十五日に勤めていた会社を退職し、翌十六日には赴任するという慌しさでした。それまでの私は一般の民間企業に勤める会社員で、福

祉とは接点が無い、言わば福祉の素人で、私のような者にこの職が勤まるのか不安もありましたが人生の最終章の仕事として児童福祉に関わらせて頂くのも何か神仏の采配のようにも思えたのでした。

当初は社会福祉や児童福祉に関する法律や制度・慣習などに無知でしたが、それまでの経験から聖友学園という事業体が一つの組織体として十分機能していると言いはし難いこと、職員の方々の組織論についての知識も関心も低いことはすぐに気付きました。学園が組織体として一定の事業目的・理念に従って園長以下全職員が共通の認識の下に施設運営に当たることの重要性を熱心に語りました。そして「組織論」や「リーダーシップ論」など関係する研修に職員を派遣し、また経営コンサルタントを招いて園内研修に取り組むことによつて、職員の意識も向上し、現在は組織としての活動が一定のレベルまで上がってきていると思っています。

さて、学園の事業目的ですが、改めて「子どもの自立支援」を強調しました。「自立なくして養護なし」「すべての活動は自立支援に収斂する」をモットーにしています。私共は「自立」を十八歳になつた子ど

もたちが卒園し、社会へ巣立つ事だけでなく、それぞれの年齢に応じて心身ともに健全に発達し、ふさわしい能力を身に付ける事と考えています。一昨年より小・中学生に公文学習を取り入れたのも試みの一つでした。健康な身体の発達には、子どもたちに提供する食事も重要です。個々の体質や体調、嗜好（しこう）等を考慮した肌目細かな食事提供を思うと、昨今取り沙汰されている調理業務の外部業者委託には「食育」の観点からも私は賛成できません。精神面では権利と義務の概念・社会性や公共心・道徳やマナー・知識や学力を年齢に相応しく取得させたいと思います。言うは易く行うは難し、これからも試行錯誤しながらの取り組みになります。一歩二歩前進のため粘り強く今後も取り組んでいって欲しいと願っております。

一般の民間営利会社では「お客様は神様」と言われます。児童養護施設にとつて「お客様」の代わりに私達が意識しなければいけないのは「納税者＝国民」ではないでしょうか。施設は措置費という公費で運営されています。私共は納税者の付託を受けて養護事業に携わっています。子ども達をしつかり自立させてこそ、納税者に対する義務を果たせたと言えます。難しいこと

ですが理論的にはそうなります。その事も私は入職以来学園内で語ってきました。納税者と言うと漠然としてイメージがつかみ難いですが、私達に顔が見える納税者とは、地域であり地域住民であります。その意味で施設は地域に開放されていなければなりませんし、地域との連携と共生を迫りなければなりません。

学校や諸機関・諸団体・個人などとネットワークを組んで、学園の子ども達だけでなく、地域の子とも達も含んで子育てに貢献していくのが施設の使命になるでしょう。学園のホールや備品の貸出しや、商店街イベントへの参加も小さな取り組みですが、昨年開設したグループホーム「けやきホーム」も小規模家庭的養護のメリットを追究したのですが、同時に施設の地域化の重要な一環です。

十八年度は第二グループホームの開設がほぼ決定していますし、近い将来「児童クラブ」や「ショートステイ」事業などにも取り組むことになるでしょう。

現状維持に甘んじず、積極的に新しい事業に挑戦して欲しいと思っています。しかし百パーセント確実な青写真を描いてからでは前に進めません。「走りながら考えよう」と私は言いました。まず走り出して下さい。「案ずるより生むが易し」と言う

ではありませんか。

高校を卒業して社会へ自立してゆく子ども達を金銭面で支える仕組みをどうしても作る必要があると切実に考えて始めたのが「聖友学園松坂自立援助基金・賛助会」の立ち上げでした。広く一般の方に会員になって頂き、浄財を会費（年間二千四百円）として寄付して頂いています。現在会員数が三百余名となり、集まった会費を毎年卒園する子ども達に分配し支給しております。賛助会員様には本誌「ぴーちっこ」を配布させて頂いておりますので、この場を借りて子ども達にとつてこのお金が最後の命綱になっていることをご報告し、ご支援に心から感謝申し上げます。会員数が五百名。千名になって、もっと手厚く子ども達に援助できる日が来ないかと夢見ている私です。

この5年間に沢山の子どもに接してきました。家庭に復帰する子、里親さんの家庭に行く子、卒園して自立する子を、幸せを願って万感の思いで送り出し、そして入れ替わり新しい子どもを迎える日々でした。子ども達に難しい問題が起こった時、見出せぬ解決策を模索して眠れぬ夜を過ごしたことも度々あります。そんな時は私

の晩酌や寝酒の量が増えてしまふのでした。中には憎まれ口を叩く子や言う事聞かない子、反抗的な態度の子、不適當な行動をしてしまう子もあり、きつく叱ったこともあります。しかし、私にとつてどんな子であれ、可愛らしく大好きな子ども達です。この子ども達が将来円満な社会人として成長し、つましくても良い、小さくても夫々の幸福を掴んで欲しいと願わずにはいられません。

私のような非才の者でも五年余り園長を勤めさせて頂けたのは、社会福祉法人聖友ホームの職員・役員のご協力があったからこそであります。また、色々な形でご支援を頂いた関係者の皆様、「ぴーちっこ」読者の皆様、本当にお世話になりました。厚くお礼申し上げます。そして十八年四月以降、新園長体制下の聖友学園に変わらないうご支援をお願い申し上げます。

園長の意思を引き継いで、これからも職員一同、施設の発展に尽くしていきます。

ぴーちっこ編集委員一同

## もぐもぐ ～乳児院、学園 食育の考え方～

現在、朝食の欠食や子どもの孤食など食生活の乱れ、偏った食事による肥満や生活習慣の増加、さらにBSEなどの新たな安全上の問題の発生など「食」をめぐる様々な問題が生じています。

今回のもぐもぐは食を通して育つ「食育」をテーマにし、学園、乳児院の考え、取り組みをご紹介します。

食育を考える・・・乳児院の栄養士として

乳児院栄養士 堀 信晴

せてあげたいと考えています。

日々の調理に際しては以下の三点を特に配慮しています。

1、いろいろな食材に興味や関心を持って食べてみようかなと思わせる工夫をする。

2、食文化は気候風土から生まれ、食生活において先人たちが伝承してきた教養であり、知恵でもあるので、日本で生まれ育つ子どもたちにも日本の食文化を伝えていくことを大切にします。

3、できるだけ手間と時間をかけて、作る人の気持ちが伝わるようにすることで、食べ物大切に作る心が育つようにする。

このような当然なことも食育だと思っ

ています。それは、子どもたちに「お腹がすいた」という感覚を持てる生活を送らせてあげたいということとです。そして、それを満たす心地よさを体験的に会得していくことで、生活リズムを確立させ

ています。食を通して、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うように努めています。

## 学園の食育

学園栄養士 岡崎 典子

「食べる」という活動は、人が生きるためになく

てはならない基本的な活動です。食事の時間を

楽しく過ごさせるかどうかは、園生活が楽しい

かどうかにもつながると思います。そして、その

人が一生付き合うことになる「食習慣」の基本

を培うのは幼児期・学童期ではないかと思いま

す。

学園では子どもたちが楽しく食卓を囲み、食

に興味・関心を持てるように日々の献立作成の

中で、旬の食材を使用したり、年間を通して行

事にかかわる食事を組み入れることにより、食

の大切さを伝えています。

### ・食の興味・関心

嗜好調査を実施し、その調査を踏まえ、子ども

たちが食への興味・関心を高めるような献立作

りに取り組んでいます。また、食を身近なもの

と感してもらえるように各居室に「栄養たより」

など掲示しています。

### ・食事指導

食事をする際、児童たちに手洗い、挨拶、食事

中の正しい姿勢、話し方、茶碗や箸の持ち方な

ど基本的なマナーを教えています。また、楽しい

雰囲気の中で食べ物の話や食べ方など興味を持

ち、身につけられるよう工夫しています。

### ・行事食

毎月の誕生会・年間を通して各行事にちなんだ

食事を提供することにより食文化に興味を持

たせています。尚、誕生会の食事は、対象児童の

意向を考慮しています。

### ・野菜栽培

小さな畑を利用して、ミニトマト・かぶ・なすな

ど植え栽培し少量ではあるが食材として使用し

ています。今後はもつと子どもたちが参加出来

るようにして、そこから栽培・生涯の学習につな

がり、食べ物の大切さを伝えていくことが出来

るのではないかと思います。

以上の様なことを行っていますが、食育を進め

るにあたり、考えるべきことは、無理やり教え

ようとするのではなく、日常生活の「こまこま

ま」の中で子どもたちが自然に食を感じ取れる気

持ちにもつていくかということな気がします。ま

た、食事を厨房内で調理しているため、調理経

験が乏しくなってしまう現状ですが、子どもた

ちが食の大切を知り、健全な食生活を送れるよ

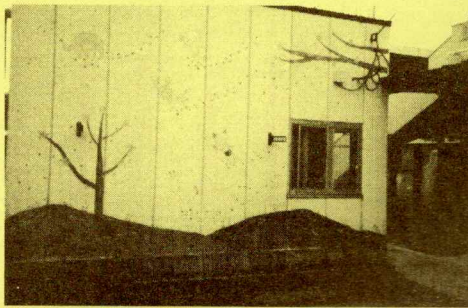
うに、いろいろなアイデアを出し合い、楽しく進

めていければと思います。

# 乳児院の壁に 描いた絵

ふわ  
ふわ  
ふわ

乳児院の裏門を抜けると、真っ白な壁のお洗濯室が見えてきます。そこに描かれた大きな3つの花と四季の絵。乳児院の子どもたちは中庭で遊んだ帰り、わざわざ遠回りして絵を見て帰ってきます。



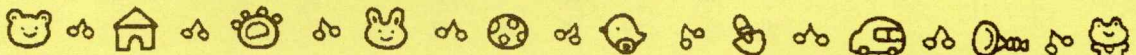
この壁面は昨年6月に退職された城間先生と学園のお友達の手により描かれました。

城間先生の絵には温かさがあり、子どもたちも職員もみんな大好きでした。今回描いてもらうことになったのも、みんなのそんな気持ちが一致したからではないでしょうか……。すてきな絵をありがとう！

## 城間先生のお話

「退職前に絵を描いてみませんか？」とお話があり、子どもたちが、指を差し、声を出し遊ぶことの出来る温かい中庭になれば・・・という思いもあり、描かせていただきました。

壁面製作にあたっては、私が乳児院で一緒に過ごした学園のM君、Ta君、To君にお手伝いをお願いしたところ、快く引き受けてくれました。(ありがとう!) 3人それぞれ個性的な大きなお花を描き込み、素敵な仕上がりとなりました。子どもたちにとって、乳児院の記憶というものは、ぼんやりとしたもので、これから先、時に不安になることもあるかもしれません。これからの生活の中で、ふっとこの絵が目に入った時でも、沢山抱っこされた、先生たちと笑った、愛された・・・というような乳児院の温かさが、3人に届けば良いなと心から思っています。



☆ぴーちっこ広場に  
お集まり下さい☆

「ぴーちっこ」は皆様とたくさんのお話ができる広場になろうとスタートしました。皆様には、「おたより」のかたちで広場に集まっていただき、子どもたちに関する様々な事柄を一緒に考えていきたいと思っています。

皆様からのたくさんのお便りをお待ちしております。下の用紙を切り取って、ご意見、ご感想などお寄せください。ファックス、Eメールでもけっこうです。

※Eメールの場合は、件名に「ぴーちっこ係」と入れて下さい。」

「ありがとうございました」

次の皆様よりご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

(平成十七年十月〜平成十七年十二月。敬称略)

△寄付金▽

東京文化幼稚園母の会、(有)タイスケ、上田万里子、大西修、坂本恵子、中島和代、野口道、野村はる子、廣田有美子、榊原裕子、永井孝子、道原商店、五十嵐青果店

(八月おたのしみ会分)

床次瑞彦、小松屋豆腐店

(次頁続く)

の り づ け

縦書きの意見書欄。中央に「の り づ け」とあり、縦に「お り づ け」という文字が透写されている。横線が複数あり、書き込み用のスペースを提供している。

の り づ け

の り づ け

※今後継続して「ぴーちっこ」の送付を希望されますか? ・はい ・いいえ

ご住所 \_\_\_\_\_ TEL \_\_\_\_\_

お名前 \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

五十嵐青果店、市村歯科医院、遠藤果実店、篠山歯科医院、西島畜産、広瀬青物店、三井精肉店

△寄付物品▽

アソシエ・アンシャンテ、アイエヌジ  
ー生命保険(株)、(株)榮太楼総本舗、(株)北村  
製作所、(株)プレナス、(株)スマートビジョ  
ン、(株)東京三菱銀行総合企画室CSR室、  
(株)古川、クイックジャパン(株)、親切会関  
東支部、全国シヤンメリー協同組合、中  
央花壇、(社福) テレビ朝日福祉文化事業  
団、東京呉服専門店協同組合、東京出版  
協同組合、東京第三友の会阿佐谷方面、  
(社団) 東京馬主協会、日本アムウエイ  
(株)、日本鏡餅組合、(財) 日本出版クラブ、  
フラワーキヤンドル、毎日新聞東京社会  
事業団、ヤマザキ製パン従業員組合、(有)  
大野屋総本舗、ワールドメイト、中北啓  
子、榊原裕子、柴崎保、鈴木泉至、斉藤  
啓子、西巻映子、八木英司、新井田恵美  
子、大西修、西眞一郎、門司一徹、野村  
訓子

△バースデーフレンド▽

上田和子、松沢勝子、嵯峨久美子、佐  
藤美彌子、原あや子、稲垣宏、水野陽子

△招待▽

阿佐谷地域集会所施設運営協議会図書部  
(えほんとおはなしの会)、(株)コムワーク  
ス(アレグリア) 大吉(食事)

1 6 6 8 7 9 0

料金受取人払

杉並局  
承認

1094

差出有効期間  
平成19年5月  
14日まで  
(切手不要)

東京都杉並区阿佐谷北3-28-19

聖友ホーム「ぴーちっこ」係行

